

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立瑞浪高等学校

学校番号 46

I 自己評価

1 学校教育目標	・誠実で、自主的・自立的な人間を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇教務部（新教育課程・学習指導）	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導における生徒評価は、どの項目においても肯定的な回答が例年どおり高い。 ・ICT機器を活用した授業に関しても高評価であり、同時に生徒の学習理解の向上につながっていると判断できる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇1年次生より新しくなった教育課程や指導と評価の一体化に対し、全教員が共通理解し、正しく評価できるようにする。 ◇ICT機器の更なる活用の模索。授業だけでなく、校外活動等にも生かせるような様々な利用方法を提示し、教員・生徒ともに十分な活用を行う。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部と教員（特に1年次生教科担任）の密な連携 ・情報化推進担当による連携の緊密化、情報教育研修の活性化 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 新課程における学習評価 (2) ICT機器の活用方法の工夫	(1) 評価規準と実際の評価の整合性 (2) 情報リテラシーの理解	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・新学習評価、特に3観点とその評価について研修を行い、正しい評価方法を全職員が身に付ける。 ・授業におけるICT機器の活用を推進する。 	①学習評価の整合性 ②授業での活用状況 ③生徒のリテラシー観察	A (B) C D (A) B C D A (B) C D
11 成果・課題	△指導と評価の一体化は、理解できても実際の評価が難しかった。さらに1年次生の教科担任となり、評価に携わらないとわからないことが多いようである。前期末での評価において、基準にそぐわない科目が5～6あったことから、共通理解の難しさを感じた。 ○生徒がソフトウェアを扱うスキルは高く、操作に関する指導はほとんどなく、教員の負担は大きくなかった。 ▲ネットリテラシーやハードウェアの扱い（破損案件）に関してはまだまだ指導を要する点がある。	
12 来年度に向けての改善方策案	授業評価について、来年度も生徒の授業態度や学習能力が、正しく評価されるよう、研修をとおして理解を深めたい。 特にタブレットについて、正しい利用方法（特にネットリテラシー）は毎年しっかりと研修を深めたい。	
総合評価 A (B) C D		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月21日

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観では、生徒が明るくのびのびと学習に取り組んでいた。タブレットの操作が不得意な生徒へのフォローアップを丁寧に行うとよい。 ・体験的な学びを充実させるとともに、普通教科の授業の質を向上させる必要がある。緊張感のある授業を実践してこそ真の学力が身に付くものである。
--

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立瑞浪高等学校

学校番号 46

I 自己評価

1 学校教育目標	・誠実で、自主的・自立的な人間を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇進路支援部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 「進路に関する情報提示」や「希望に沿った具体的な進路指導」については年次が上がるにつれて評価が高くなっている。また、全体的な評価も昨年度に比べて10%上昇している。 2年次生と3年次生の保護者向け進路説明会を対面で行った。参加率は50%に満たなかったが、積極的に分科会などに参加されている姿がうかがえた。 	
4 今年度の具体的なかつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 瑞高塾を活用した学力の定着。 実習や地域探究活動を活用した社会で通用する実践力の養成。 上級生や卒業生を活用した進路研修の実施。 卒業後の進路につなぐ、就職や学校推薦型選抜に関する校内ルールの定着。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 進路支援部内に進学担当、就職担当、各年次担当を置き分担する。 年次毎の特編クラス会議を通じて教科担任と指導方針を共有する。 キャリアプランナーにより、地域の事業所と連携した就職指導を行う。 地域連携コーディネーターを中心にした地域連携PJチームの推進。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 進路支援部会を定期的開催し情報を共有する。 (2) 年次毎の特別編成クラス会議を7、10月に開催し、指導成果の確認や修正を行う。 (3) 年次や教科と連携し、瑞高塾を実施する。 (4) 集中学習会や全校で語る会を実施し、進路について異年齢間交流を実施する。 (5) 生活デザイン科では地域での実習の推進、普通科では地域連携PJの3年間の計画や組織を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 外部模試による成績の推移 (2) 外部講師やパートナーによる評価 (3) 生徒・職員へのアンケート結果 (4) 就職試験、入学試験の結果 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> (1) 毎週の部会で行事計画と内容を確認し、他の分掌との連携を行った。 (2) 年次毎の特別編成クラス会議は一部教科担任との実施にとどまっている。 (3) 1、2年次の月曜補習、3年次の進学補習、長期休暇補習、就職補習などを計画的に実施した。 (4) 集中学習会での卒業生と語る会、新しく作った全校で語る会など学生同士の対話の機会を作った。 (5) 地域とのつながりを利用した活動を実施した。特に普通科では、1年次生は大湫町のコミュニティ推進協議会と連携して活動し、2年次生は地域の事業所の方に伴走していただき、探究活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①進路行事は生徒の進路実現に向けたものとなったか。 ②部内の教員が協調して動くことができたか。 ③生徒の学力は向上したか。 ④生徒の希望進路を実現できたか。 	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>Ⓐ B C D</p>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○進路支援の諸活動に対して、生徒たちが自分のこととして取り組み、進路先を決定することができた。 ○地域連携PJの成果として総合型選抜で大学に合格することができた。 ▲指定校推薦受験者について、指定校の基準である評定値と実際の学力に開きがある。家庭学習習慣の定着が課題である。 ▲部内での役割分担が不十分で、年次の行事等で支障をきたす場面があった。 	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>学力向上や定着に向けた取り組みを全て見直し、本校の生徒の進路目標に向けたものとなるよう考える。また、全職員で共通認識を持ち一丸となって生徒に向かう体制づくりを心がける。キャリアプランナー、キャリアコーディネーターを活用し、生徒のキャリア形成を推進する。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月21日

【意見・要望・評価等】

- ・生徒自身が未来に向けて明確な目標を描けるように、本校ならではの具体的なキャリアパスを示していくとよい。
- ・3年次になってから進路目標を具体化するのではなく、1年次のうちから生徒が明確な目標を持ち、その目標に向かって学習に取り組めるような指導をするとよい。
- ・高校の魅力は進学実績によるところが大きい。成果をあげられるように、今まで以上に進学指導を充実させてほしい。
- ・地域連携プロジェクトを通じて、生徒たちが自分の考えを深めて、それを発表する経験を積み重ねてきたことを評価したい。これは、大学のAO入試や将来の仕事でも求められる能力である。さらにブラッシュアップできるように取り組んでほしい。

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立瑞浪高等学校

学校番号 46

I 自己評価

1 学校教育目標	・誠実で、自主的・自立的な人間を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇生徒支援部（生徒指導、教育相談、特別活動、保健厚生）	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の悩みや相談事への対応は少しずつではあるが、年々評価がよくなっている。60%→66%→70%→72%→74% ・基本的なモラルやマナーを身に付けさせていることに高い評価を得ている（85%）。 ・部活動やボランティア活動に比べ、生徒会活動への評価が低い。（79%）（75%）（66%） 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇時間を守り、身のまわりを清潔に整え、挨拶にあふれた学校生活が送れるようにする。 ◇MSL活動を通して主体的に判断し、行動しようとする態度の育成	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による挨拶の励行、遅刻防止への働きかけ。 ・SCとの連携や職員研修会を通じた不登校傾向生徒への早期対応。 ・各種検査や面談週間での生徒の情報収集、特別支援計画への理解。 ・部顧問会議や各クラスへの情報提供、他分掌との連携。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 登校指導・学年指導・個別指導。MSL活動の充実。 (2) 各種検査や面談週間等による生徒理解。 (3) 部・生徒会・委員会・ボランティア活動の充実。	(1) 生徒個々に応じた対応と適切な支援 (2) 自己存在感、自己有用感の醸成 (3) 教育相談体制の充実と生徒理解	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 全職員による指導 MSL活動など対外的なボランティア活動への積極的参加。 (2) クレペリンやQU検査、職員研修会、面談週間を通しての生徒理解。速やかないじめへの対応。 (3) 部活動加入率。定期的な生徒会活動。ボランティア活動の紹介、募集。	①共通理解・共通行動・社会的規範意識の育成。 ②教育相談と生徒への共感的理解。 ③特別活動の活動状況。	(1) A B C D (2) A B C D (3) A B C D
11 成果・課題	○コロナ禍で引き続き登校指導の教員を検温・健康チェックに充てていたが、後期より教室内でのチェック体制に移行し、一部の教員で登校指導を行った。挨拶をしながら、生徒と交流することができ、生徒理解につながった。 ○諸検査やアンケート後の対応を速やかにすることで生徒理解に努めることができた。諸検査はその効果を踏まえ、対象学年を増やすなど充実させる。 ○不登校生徒（30日以上欠席）の発生率は12月末現在、昨年度同様1%と少ない。 ○MSL活動（挨拶運動、交通安全活動、街頭啓発活動）は昨年度以上に積極的に活動できた。 ▲いじめに関する取組は、生徒からの評価は高いが、保護者にはなかなか見えない部分であった。残念ながら保護者からの訴えで発覚するケースもあった。	
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の悩みにより早期に対応できるように教育相談体制の充実を図る ・誰もが楽しく活動できる部活動を通して、人間的な成長を育む ・地域と連携した活動を通して自立した生徒を育成する 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月21日

【意見・要望・評価等】

- ・校内がとても綺麗であり、生徒が明るく挨拶をしてくれた。これは、落ち着いた学校生活ができていることのあらわれである。
- ・自己評価に「地域と連携した活動を通して自立した生徒を育成する」という方策案があげられており、地域としてもありがたい。

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立瑞浪高等学校

学校番号

46

I 自己評価

1 学校教育目標	・誠実で、自主的・自立的な人間を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇生活産業部（生活デザイン科（生活福祉科））	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時のアンケートでは、生徒保護者共に検定合格や資格取得に意欲的に取り組むことを望んでいる割合が多い。実際にこれらを目指して前向きに取り組む生徒が多い。 ・自己肯定感の低さからか、人間関係で悩む生徒が少なくない。 ・専門的な学習内容に困難を感じている生徒がいる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目の確かな知識や技術を習得し、進路実現に向けて意欲的に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ・検定や資格取得を目指す活動を通して自ら行動することを学び、自己肯定感を向上させる。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な生徒を主体とした情報交換をこまめに行い、教員間の協力及び連携体制を整える。 ・外部講師の活用やICTを活用した学びの工夫を行い、専門的な学習の深化に繋げる。 ・生徒の実態に応じた学習指導の在り方を共有する。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 地域の社会資源との連携 (2) 外部講師を招き、各コースの専門性に合わせた講習会などを実施する。 (3) 教科会において「報連相」を確実にし、支援が必要な生徒を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 地元産業団体との連携。 (2) 講習会後の生徒の反応及び感想・評価。卒業制作・実践活動発表会での成果発表。 (3) 支援が必要な生徒の学習の様子を継続的に観察し、評価に繋げる。 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・専門家や地域産業に関わる人との交流や体験を通して、自発的な学びが行える環境づくり。 ・専門科目に関連する進路実現への取組。 ・支援が必要な生徒への個別援助。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒が意欲的に活動に取り組む姿勢が見られたか ②専門科目に関連する進路実現ができたか ③生徒個々の専門的知識や技術の習得到達点が把握できたか 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<p>○インターンシップや地域行事（福祉まつり）への参加が可能となり、生徒の活動が広がると共に、活動することによる達成感を得られた。</p> <p>○生徒は検定への取組や作品制作などの専門的な学習を意欲的に行うことができた。また、卒業制作・実践活動発表会を通して学習の成果をアピールし、自信を持つことに繋がった。</p> <p>▲キャリア教育の在り方を見直し、学びの成果を生かした進路選択及びその実現ができるような活動を取り入れていきたい。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生活デザイン科が習得できる知識や技術を披露する場を活用し、より効果的に地域社会へアピールする方法を検討し、実践する。 ・生徒の実情を把握し、学習内容及び各行事の検討・精選を行う。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月21日

【意見・要望・評価等】
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が様々な学びを選択し、個々が目標をもって学習に取り組んでいる様子から、きめ細やかな指導の成果がうかがえる。 ・生活デザイン科においても、普通科の地域探究学習と同じように、将来の仕事や必要となる資格について1年次生のうちから学ぶとよい。地域とも関わりながら目標を持って取り組んでほしい。